

Mi Vida en México

語学学校 CEPE の第2学期が終わり、メキシコでの生活も後半に突入しようとしています。2月27日から3月1日の3日間、広島県と友好提携を結んでいるグアナファト州との交流事業に参加するため、グアナファト州に行きました。今回は、その研修について報告していきたいと思います。

2014年に友好提携を結んだ広島県とグアナファト州は、現在まで様々な分野での交流を行っています。友好提携のきっかけとなったマツダ株式会社のメキシコ進出を中心に多くの県内の関連企業の関わりがあります。さらに、グアナファト州はメキシコ独立戦争が始まった地として歴史的に重要な都市であること、2つの世界遺産を持っていること、サッカーなどプロスポーツが盛んであることなど広島県との共通点を多く持ち合わせています。

今回、参加した研修では、日本国総領事館への表敬訪問やマツダメキシコ工場と広島アルミニウム工業会社工場の見学、グアナファト大学の学生との交流といった活動を通して、広島県とグアナファト州の関係をより深く理解することができました。

1 日目 在レオン日本国総領事館表敬訪問とレオン市内見学

研修の 1 日目は、グアナファト州レオン市を訪れました。メキシコシティからバスで約 5 時間。レオン市は靴産業で有名ということもあり、バスターミナルに着くと、革靴を売っている店が沢山見られました。

レオン市内を見学し、昼食は“Rockstar Burger”へ。個人的に、昨年 12 月にレオン市を訪れたことがあり、その時食べたレオン市内のハンバーガー屋さんの味が忘れられず、もう一度訪れました。市内に 3 店舗あるようで、レオン市を訪れる方にはおすすめの店です。



その後、在レオン日本国総領事館へ訪問し、板垣総領事から広島県とグアナファト州の関係や今後の交流事業について説明をしてもらいました。両都市間の交流は、他の都市にはないほど盛んであるという話が強く印象に残りました。それと同時に、交流をより活発にできる余地があるという話もいただきました。私が所属している広島修道大学もグアナファト大学と協定を結んでいますが、あまり交流をできていない状況です。今後、大学の学生同士の交流など私ができることから始めて、少しでも両都市の交流の発展に貢献できればと感じました。

また、3月中旬には、広島県のサッカー高校選抜チームがグアナファト州を訪れ、現地のチームと試合を行うということも伺いました。私も試合の観戦に行き、交流に携われたらと思っています。

2日目 グアナファト州政府訪問・現地大学生との交流・企業訪問

2日目は、グアナファト州政府の教育省を訪問しました。両都市の教育分野での交流状況の説明を受けました。教育分野の交流は大学間だけでなく、高校生の留学や青年団の交流など教育分野だけでも様々な交流がなされていることを知りました。学生間での交流は、今後の両都市間の発展にとって非常に重要な点の一つだと思うので、そういった面を知ることができて良かったです。



州政府訪問後は、グアナファト大学の学生と交流をしました。意見交換のテーマとなっていた「教育分野における交流事業について」の話だけでなく、互いの文化や日本語学習について話すなど充実した交流となりました。

教育分野における交流については、個人的に大学入学後の授業や国際交流で多くの経験したオンラインについて話しました。実際に現地に行くことも重要ですが、オンラインを取り入れることでより多くの交流機会を得て、互いの文化や街への関心が高まるきっかけとなるのではと考えています。

今回交流した学生の多くは、日本に行ったことがない人でしたが、日本語が堪能で、アニメや歌手など日本の情報にとっても詳しく、様々な話題でも盛り上がりました。このように話し合う交流は、オンラインでも簡単にできると思うので、個人的な交流や大学内でのイベントなど様々な形で、計画できたらと思います。



グアナファト大学の学生との交流後、企業訪問として “Hal Aluminum Mexico, S. A. DE C, V.” 「広島アルミニウム工業」を訪問しました。管理本部長の村越さんから会社の説明を受け、工場見学をしました。特に印象に残ったのが、「おもいやり教育」「おもいやり推進活動」です。上司と部下、日本人とメキシコ人の間で積極的にコミュニケーションを取り、働きやすい環境を整備するといっ

た取り組みをされていきました。これらの取り組みによって、離職率は年々低下し、教育・訓練によるスキル定着が可能になったそうです。

言葉も文化も異なるメキシコ人と日本人が同じ場で働くというのは、簡単なことではないと思いますが、それに対して「おもいやり」という視点から取り組まれているのが非常に興味深かったです。



3 日目 マツダメキシコ工場見学

3 日目は、グアナファト大学工学部の学生とサラマンカ市内にあるマツダ株式会社のマツダメキシコ工場を見学しました。広島にある工場を想像して行ったのですが、それを超える工場の大きさに衝撃を受けました。山口県にあるマツダの工場をモデルにしたものだそうで、敷地は東京ドーム 54 個分。生産量は約 10 年間で 142 万台にも上るそうです。マツダメキシコ工場で生産された車の半分以上はアメリカやカナダへの輸出で、その他 20%がヨーロッパ、10%がメキシコ以外の中南米と多くの国へ供給するのに非常に重要な役割を担っています。

一方で、メキシコ国内での販売は全体の 10%と少なく、今後はメキシコ国内の生産率を増やしていくことにも視野に入れているそうです。工場見学で車が作られる過程を見て、様々なニーズに合わせて生産していることが非常に興味深かったです。

それらの中でも私は、マツダメキシコの社会貢献という点に注目しました。工場の廃棄物 95%のリサイクルや野生動物の保護、植林など環境保護への貢献や、コロナウイルスワクチンの接種会場の提供、駅伝大会・子どものサッカー大会の開催、現地児童へのおもちゃ寄付・・・など、様々な形でグアナファト州への地域貢献を行っているそうです。また、地域貢献は、それだけではなく、マツダメキシコの従業員 4752 人のうち 95%がグアナファト州出身者で、将来的には、地元と協力して、技術を学べる機会を計画中といった話も伺いました。その話を聞いたグアナファト大学の学生は、「機会があれば、もっと多くのことを学んでみたい」と興味津々でした。

海外にも生産拠点を持ち、世界へ進出する企業は多いと思いますが、マツダメキシコは世界へ進出するという目的だけでなく、地域に密着した活動を通じて、グアナファト州の経済発展や人材育成といったことも大切にされているということも学びました。



今回のグアナファト研修は、非常に多くのことを学ぶことができ、収穫の多い3日間となりました。特に、どの場面でも「人と人とのつながり」の重要性を感じました。それは日本人とメキシコ人の間に限ったものではなく、メキシコ人が集まっている場でも感じました。互いの文化を学び合い、尊重し、関係を築いていく。これが交流において重要だと改めて思いました。

メキシコ生活も残り半分を切りました。メキシコ文化とスペイン語を学ぶだけでなく、広島文化をもっと多くの人に発信していきたいと思えます。そして、それ以上に、メキシコで出会った人たちとのつながりを大切にしていきたいと思った3日間となりました。

今回の研修で、広島県とグアナファト州の担当者の方、コーディネーターとして帯同してくださった土田さん、グアナファト大学の学生、工場見学を受け入れてくださった関係者の方々、多くの方にお世話になりました。今回の貴重な経験を活かせるよう引き続き頑張っていきたいと思えます。